

広島県歯科医師連盟通信 VOL.4

第103回日歯連盟評議員会

9月19日（金）午後1時より、「新歯科医師会館」において、第103回日歯連盟評議員会が開催された。永山一行日歯連盟会長は「突然の首相の辞任は大変遺憾であり納得いかないが、総裁選挙後に解散総選挙も近いと思われる。米国の大手金融機関・保険会社の破綻や農水相の辞任など政府の力量が問われている時期であるからこそ、政権与党がしっかりした施策を行う必要がある、何としてでも選挙に勝って頂きたい。また、本年度から各都道府県においてはデンタルミーティングを開催して頂いているが、我々の現状を理解している議員と接し効果的であると思っている。医科と歯科の格差・レセプトオンライン化・社会保障費抑制・公益法人改革・需給問題そして口腔保健法の制定など多くの問題を抱えているが、残り半年の任期の中で戦略を立てながら次への道筋をつけたい。そして、この度の次期参院選比例代表単一候補の選考ができなかったことは甚だ残念であるが、3月までに臨時評議員会を開催してでも決定したいのでご協力を賜りたい」と挨拶した。来賓の大久保満男日歯会長は「麻生、与謝野両氏は社会保障費削減については行わないと明言しているので期待したい。また、次期比例代表単一候補の選考については困難であろうが適任者を選出して頂きたい」と述べた。

国会報告で、石井みどり参議院議員は「日本の医療は崩壊寸前であり、特に疲弊した歯科医療を立て直していかなければならないが、診療報酬改定に際しても税調での発言も与党であるからこそ出来ているので、総選挙ではどうか地元の与党議員を応援して頂きたい。また、9月24日、第2回の国民歯科問題議員連盟総会を予定しており、口腔保健法の制定へ向けに応援団を作りたい」と熱く語った。連盟褒賞授賞式、各報告の後、平成19年度一般会計収支決算など6つの議案が可決承認された。続いて協議に移り、次期参議院議員選挙の比例代表単一候補の選定について当初執行部は、今までの規定で行う旨の説明であったが、「規定を一部改正して前回の選考委員会の7名の候補を含む形で再選定してもらいたい」また「執行部はもっと確固たる姿勢で臨んでほしい」などの意見が多数出され、これを受けて執行部も多くの意見・要望を踏まえた上で対処することを了承して閉会した。